

テーマ：『 学び合い、高め合い、響き合うエネルギーリテラシーの育成 』

福岡県 福岡市立 高木小学校

Tel. 092-501-7521

担 当 鶴田 千詠子

者：



■実践内容：

本校の5年生は、総合的な学習の時間に環境エネルギー学習を行っている。環境エネルギー問題とは何か知ることから始まり、課題決定・課題解決のための実験調査・発信まで、1年間をかけている。6年生に進級してからは、委員会活動を中心に、環境エネルギー問題を解決する取り組みを全校に広めている。

■実践成果：

- 課題解決のためにどんな実験調査をおこなえばいいのか、ということ子ども達自ら考えることができるようになった。また、より正確なデータ収集のために実験調査を数回行うなど、実験調査のスキルを身につけることができた。
- 発信の一つとして、近隣の小学校から5年生を招いてワークショップ形式の発表を行った。初めて出会う人達にも自分達の思いが伝わるよう、相手意識をもって発表の準備を行うことができた。また発表しながら相手の反応に合わせて説明の仕方を変えるなど、子ども達の発信の力・自信をつけることができた。
- 今年度6年生になった子ども達が中心となり、全校でアルミ缶リサイクルを行った。ポスターを校内に貼ることで、目的や収集方法を多くの人に伝えることができ、多くのアルミ缶を集めることができた。
- 今年度の5年生は、昨年度の5年生の発表をみているので、イメージをもって学習に取り組むことができている。課題解決のためにもものづくりを行う子ども達が出てきており、新たな発信方法を探っているところである。

■実践ポイント：

- 「クーラーの設定温度は28℃に」等、環境エネルギー問題には答えが多くある。この学習では「その答えの根拠は何か。本当にその答えでいいのか。もっと取り組みやすい方法はないのか。」ということ子ども達の生活の中で見出していくことが重要である。そのことによって、子ども達は環境エネルギー問題を身近なものとしてとらえ、学習後の自分の生活の仕方へ取り入れていくことができる。
- 相手に伝わる発信にするためには、見ている人にとって参加・体験ができることが効果的である。ポスターセッション型の発表しか経験していない子ども達に、参加体験型の発表の例を示し、発信方法を工夫させることを大切に行っている。